

平成29年度 8月定例会会議録

- ◎招集年月日 平成29年8月21日（月）
◎開催日時 平成29年8月29日（火） 午後3時～午後5時36分
- ◎場 所 伊那市役所 305会議室
◎出席委員 松田教育委員長、宮脇職務代理者、田畑教育委員、原田教育委員
◎欠席委員 なし
◎出席職員 北原教育長、大住教育次長、吉田学校教育課長、小松生涯学習課長、捧文化振興課長、宮下スポーツ振興課長、中村指導主事、唐木指導主事

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 委員のひと言

- ・資料『はじめに子どもありき』その源流を訪ねて（六）」に基づき委員長発表

4 会議事項

第1 教育長報告

- ・資料に基づき教育長報告
- ・委員長から、成人式の進行について、事前に公民館主事と打ち合わせが行われているか質問があり、生涯学習課長より、館長主事会の際、青少年係長と打ち合わせをしており、元となる次第は一緒だが、各公民館で、順番が変わったりすることはあるとの説明があった。
- ・委員長から、西箕輪では、2点気になることがあった。1点目は、「伊那市の歌」の斉唱が、1番、2番だけで3番が省略されたこと、3番は伊那市の立ち位置を示している大事な歌詞である。2点目は、市民憲章の朗読に合わせ、唱和すべき部分の唱和がなかったとの発言があり、生涯学習課長より、市民憲章については、総務課からの要請で、去年は資料を配布するのみであったものを、唱和するように打ち合わせ済であったとの説明があった。
- ・委員長から、連絡が不十分だったと思われるので、反省会の折に伝達しておくよう指示があった。
- ・委員から、手良と美篤、西春近でも唱和がなかったとの発言があった。
- ・委員長から、開催は、公民館ごとだが、式典の中身は統一した方がいいとの指示があった。

第2 協議事項

- (1) 教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書について

- ・資料に基づき各課長説明
- ・委員長「キャリア教育の推進」事業で、受け入れ事業所数が、27年度が192、28年度が180と減少している原因について質問があり、学校教育課長より、事業所都合で若干減少したが、職場実習に不都合はなかったとの説明があった。
- ・委員長から、同事業の課題と方向性で、「小学校、高等学校との連携を図る必要があります」とあるが、具体的に進めていく方向性はあるのか質問があり、学校教育課長より、昨年度、一昨年度と小学校でキャリア教育に取り組んだ学校があり、小学校の取り組みをどのように継続させるべきかが課題となっている。また、高校進学後、地域の事業所を知る機会がない実情から、中学校でのキャリア教育を高校にどのように持ち上げ連携していくかが課題となっているとの説明があった。
- ・委員長から、「学力向上」事業の達成状況に「『早寝、早起き、朝ご飯、朝読書』など生活習慣の定着を進めました」とあるが、新学習指導要領で英語学習が入ってくるため、英語学習と朝読書との関連についても考えておく必要がある。文部科学省が示した総合学習から15時間流用できるとする取り扱いについて、伊那市は行わないことにしており、違うところに位置付けせざるを得ないため、時間の取り方等について検討しておくよう指示があった。
- ・委員長から、「幼保小中の連携」事業の「保育士・小学校教職員の相互1日体験」は、現在も実施されているか質問があり、学校教育課長より、実施しているとの説明があった。
- ・委員長から、「信州大学・東京藝術大学との連携」事業で、自己評価がbになっているが、東京藝術大学との連携は、全国的にも稀有な取り組みであるにもかかわらず、bになっている根拠はなにか質問があり、学校教育課長より、信州大学との交流では、更に多面的に取り組める余地があると考えているとの説明があった。
また、教育長より、信州大学との連携では、今のところ、新たな展開はない。信州大学側としては、教職を目指す学生との交流について、さらなる深化を求めており、今後考えてみたいとの説明があった。
- ・委員長から、そばやアマランサスの栽培指導に信大の教授が関わってくれている。また、西箕輪公民館の宿泊合宿には、農学部が尽力してくれており、そうしたところをクローズアップし、更に深めて関連性を高めていくにはどうしたらいいかについて、考えてほしいとの発言があった。
- ・委員長から、「子育て教育支援相談、家庭児童相談」事業の達成状況で、児童の虐待通告件数が、前年の36件から昨年が67件、対象児童数が、77人から122人と倍増している原因はなにか質問があり、学校教育課長より、27年度が少なかったもので、26年並みに戻った状況にあり、27年が少なかった原因について担当部署で考察しているとの説明があった。
- ・委員長から、「市民大学・市民大学大学院」事業の達成状況で「伊那市の発展のため行動できる地域のリーダーとなる人材の育成を目指します」とあるが、おいで塾での活動に対する協力など修了者に対して働きかけているか質問があり、文化振興課長より、具体的な呼びかけは行っていないので、今後考えていきたいと

の説明があった。

- 委員長から、「青少年育成対策」の事業内容に「地区における青少年の健全育成及び家庭教育推進活動」があり、教育委員に対して、地区ごとの「よりよい教育環境推進協議会」への参加要請がある。教頭、校長に話をし、会議における教育委員の位置づけを明確にして、地区によって対応に温度差が生じないようにするよう指示があった。
- 委員長から、「千両千両井月さんまつり、信州伊那井月俳句大会」事業に関連し、井月は山頭火と非常に深い関係があったり、芥川龍之介との関係があった。そうしたことはあまり知られておらずもったいない。新幹線の山口駅前には、山頭火の銅像が立っており、駅を降りた瞬間、山頭火との関係がわかるが、伊那市駅前にも井月像を建立したらどうかとの問題提起があった。
- 委員長から、「創造館」事業の入場者数4万2千人、1日平均140人という実績は、7万市民に対してすごいことだとの感想が述べられ、文化振興課長より、学習室利用がとても多く、大きなイベントがあり利用者増につながったとの説明があった。
- 委員長から、非常に健闘している。交通の利便性を考慮すると歴史博物館と美術館も健闘している。各市には、こうした美術館・博物館をバスが経由しているケースがあり、例えば、歴史博物館や美術館を経由して勝間を通過して三義に行くなど、誘客を図る方策を大胆に考えた方がいいのではないか。なつかし館を通過してループ橋経由で美術館を通過していけば利用が増えるとの発言があり、教育次長より、交通対策協議会があり、収益性が上がれば検討の余地があると思われるので、担当の企画政策課に話をすると説明があった。
- 委員長から、「総合型地域スポーツクラブ」事業の課題に「会費については県下のクラブの中でもトップクラス」とあるが、会費が高いという意味か質問があり、スポーツ振興課長より、高いという意味であるとの説明があった。
- 委員長から、会費はいくらか質問があり、スポーツ振興課長より、入会金が1万円で、年会費は種目によって違いがあるが5,000円～8,000円のため、入会初年度は、15,000円～18,000円の負担となるとの説明があった。
- 委員長から、他市の状況について質問があり、スポーツ振興課長より、もう少し安くほとんど取っていないところもある。伊那市は、独立採算でやっていくという考えで、値上げしてきたが、これ以上の値上げは難しい状況であるとの説明があった。
- 委員長から、「ソフトボールの振興」事業に関連し、今年は、東部中学校が活躍した。小・中学生、伝統校である弥生ヶ丘高校などが力をつけて、子どもたちが活躍する、そういう方向性も参考になるとありがたいとの感想が述べられ、スポーツ振興課長より、達成状況に記載があるように、小学生の女子チーム「アルプスイーナちゃんクラブ」が活動している。この卒業メンバーが東部中で活躍しており、非常に良い活動になっていると思うが、クラブの広まりが限定的であるところが課題であるとの説明があった。
- 職務代理者から、「青少年育成対策」事業の方向性で、「委託料について見直しを進める」とあるが、どういう方向で進めるのか質問があり、生涯学習課長より、委託料は、均等割と子ども的人数割で計算しているが、過疎化が進んでいるとこ

ろで負担が大きく増えており、補助金を増やしてほしいとの意見がある。均等割を重くして児童割を少なくする方向性を考えているとの説明があった。

- 委員長から、有識者で構成される評価委員は誰か質問があり、学校教育課長より、未定であるとの回答があった。
- 委員から、「学校備品整備・情報教育事業」で、ICT機材を整備しネットワークが構築されてきており、活用を図ることが重要になる。例えば、中学生サミットなどの生徒会活動で、準備を子どもたちが自主的にやるために、生徒会会議室をつないでテレビ会議が開催できれば、距離や時間を気にすることなく意見交換ができる。キャリアフェスティバルの実行委員会でも活用できる。こうした活用を図ることのできる人材はいるか質問があり、学校教育課長より、システム的には可能だがうまくつながらない状況で、原因を調査中であるとの説明があった。
- 委員から、高額な機器を導入しており、授業でタブレットを使用しインターネットにつなげて終わりではもったいないので、活用をお願いしたいとの発言があった。
- 職務代理者から、「信州高遠美術館」の若手作家の企画展では、伊那谷出身の作家12人のうち、半分程度が飯田市出身であった。出身地の飯田市周辺で開催パンフレットを配布することで誘客を図れるのではないかと、どこに宣伝、PRをかけるかが重要であるとの発言があり、文化振興課長より、県内美術館や博物館には配布しているが、今回こういう企画展をやりますというような、特別に力を入れていないが、今後力を入れて観客の増員につなげたいとの説明があった。

第3 報告事項

(1) 上伊那教育課程研究協議会について

- 資料に基づき学校教育課長説明
- 高遠中学校について、事務局対応とすることとされた。

(2) 伊那市学校給食農体験事業「暮らしのなかの食」1学期のまとめについて

- 資料に基づき指導主事説明
- 教育長から、「子どもの姿、意欲」に関わって、今年、集中豪雨災害で高遠北小学校の畑が土砂に埋まり、大豆に被害が出た。大豆は高遠そばの味噌を作るため作っているもので、これをどうするか結論は聞いていないが、こうした目的意識を持って栽培しているので、意欲に関わってくる。二つ目は、内山節先生がおいでになり学校を視察した際、2校で、副学席の子どものために作物を作っていた。やはり、目的を持っているということが、このところの3年間の取り組みから変化してきている部分で、良い傾向であるとの発言があった。
- 委員長から、内山節先生から「農のある学校」を実感したとの話があり、各学校で活動が定着していい方向に進んでいる。11月16日の実践発表と先生の講演会は、ニシザワいなっせホールで行われる。300人の収納人員を埋める具体的な計画があるか質問があり、学校教育課長より、担当係で計画しているとの回答があった。

- ・委員から、上伊那の就活合宿で出会った信大経営法学部の学生や製造会社社長から、内山先生の講演会を聞きたいとの話があった。移住定住や環境、哲学に興味のある方に向け広く働きかければ、市外からも聞きに来てくれると思う。広がりを持って広報してほしいとの発言があった。
- ・委員長から、いなチャンネルの広報番組や市報で紹介してもらおうなど、いろいろな方法で広く呼び掛けてもらえば、大勢の方が来てくれるのではないかとの発言があり、学校教育課長より、チラシを作成のうえ、各種団体に投げかけるようにしていくとの説明があった。

(3) 第31回伊澤修二記念音楽祭について

- ・資料に基づき生涯学習課長説明
- ・職務代理者から、発表は東京藝術大学のオーケストラと声楽科のみなさんによるものか質問があり、生涯学習課長より、メインの第九ではソリストを一人ずつと、オーケストラの演奏に負けないように合唱団への補強の要員にも来ていただくこと、練習にも1日来ていただくことを想定しているとの説明があった。

(4) 蕪崎市との文化交流事業への参加について

- ・資料に基づき生涯学習課長説明
- ・職務代理者の参加を予定することとされた。

(5) 親孝行の讃歌事業の応募結果について

- ・資料に基づき生涯学習課長説明
- ・委員長から、想定を上回る大勢の方から応募いただいて良かった。追加の審査員として、美篤公民館長、西箕輪公民館長を急遽お願いするなど、うれしい悲鳴であるとの発言があった。

(6) 伊那地区成人式の実施報告について

- ・資料に基づき生涯学習課長説明
(質疑なし)

(7) 「おいで塾」実施報告について

- ・資料に基づき生涯学習課長説明
- ・教育長から、午前中に開催された社会教育委員会議で、「西箕輪公民館の通学合宿では、信大の農学部で卒業後も参加してくださっている人がいる。今年、5泊6日のボランティア休暇を取って参加してくださった県職員である。」との報告があったとの発言があった。
- ・委員長から、ありがたいとの感想が述べられた。

(8) 第4回信州いなクロスカンントリーレース・第7回伊那市トリムマラソン大会について

(9) 第35回市民駅伝イーナちゃん駅伝カーニバルについて

- ・資料に基づきスポーツ振興課長説明
(質疑なし)

(10) 共催・後援について

- ・資料に基づき学校教育課長説明
(質疑なし)

(17) その他

5 その他（教育次長）

(1) 9月の日程について

(2) 10月の主な日程について

・まほらいな市民大学入学式	10月	2日（月）	午後1時30分
・葦崎市との文化交流会	10月	8日（日）	午前8時
・上伊那教育課程研究協議会	10月	11日（水）	午前8時30分
・10月定例教育委員会	10月	26日（木）	午後1時
・教育委員と教頭との懇談会	10月	26日（木）	午後3時30分
・長野県市町村教育委員会研修総会	10月	27日（金）	午前9時50分
・第31回伊澤修二記念音楽祭	10月	28日（土）	午前9時

6 閉 会